

畜産技術・経営診断 指導技術者協力要請会開催

前月号に記載したように、新しい畜産指導体制が整って、このたび岡山県畜産会の主催による畜産技術者協力要請会が次のように開かれた。

と き 昭和31年3月28、29両日
ところ 岡山市上石井遺族会館

次第

第1日（3月28日）

開会挨拶 大河畜産会会長
挨拶 曾我農地経済部長
畜産指導体制強化について 惣津畜産課長
新しい畜産指導の主旨について
農業改良課 佐々木専門技術係長
畜産技術経営診断事業のやり方

打合せ協議

第2日（3月29日）

診断表の書込み方 農業改良課 黒住技師
畜産課 渡辺技師

質疑応答

出席者は指導員43名、農業改良普及員37名、家畜保健衛生所員20名及び各地方事務所畜産係員7名の合計107名であった。先月号で述べたことと重複するが、もう一度ここで「畜産技術並びに経営診断指導事業」について概略を示してみよう。

戦後畜産の発達は誠に目ざましい。これは畜産物の著しい消費増加などのような、畜産の発達を促す外部的条件に負うところが大きかった。一方昨年の世界的な農産物の豊作から米麦などに余剰を来して食糧事情は非常によくなって来た。このため米麦作を中心とする従来の日本農業へ与える影響は相当大きくなって来た。この時畜産物はバターなどの一部加工品を除いては生鮮食糧品であるために、世界的な豊作の影響を受けることが少い。のみならずこれを契機として農業経営の中に占める畜産の地位が相当向上して行く

傾向となって、畜産の重要性はますます大きくなって来た。

この時に当って畜産の指導組織はどうであろうか。国や県の謂わゆる官庁指導は末端の普及所や家畜保健衛生所の指導が予算などの制約を受けて陣容等で充分徹底しないうらみもあったように思われる。またいろいろな畜産団体は、その指導がそれぞれの分野に分れていて、お互いの横の連絡が密接でなく、バラバラになり勝ちであった。さきに設立された岡山県畜産会はこの欠陥を補って県内の各種畜産団体の横の連絡を密にして、官庁指導の手の届かない所を補い、組織だった指導体制で末端農家へ一貫した指導を行き渡らせる役目を果すものである。

国は昭和31年度新規に畜産技術振興費を追加予算に計上して、県畜産会に畜産技術並びに経営の診断指導を行わせることとしたが、この事業については先月号に報道したとおりである。今回この事業について、くわしく指導員に説明して、その協力をお願いするために、前掲のように3月28、29両日協力要請会が開かれた。経営診断事業の規模にふれて見れば、昭和31年度から5ヵ年計画で、全国600万戸の農家の3分の2の400万有畜農家について、その20分の1の20万戸を対象農家として選定して直接指導することになっている。昭和31年度は差し当り指導員2,300人で対象農家2万3,000戸の規模で行われるが、岡山県では指導員69名で、690戸の有畜農家を対象に経営診断が行われることになっている。国からの補助もこの事業規模に応じて県をとおして、県畜産会に交付されることになっている。この補助金は指導員が経営診断のために実際に活動する日数に応じて活動費の半額補助となっている。

この事業のやり方は対象農家に対して、その農家の畜産経営がよく分るような一定の様式による診断表というものを配布して、これに昭和30年4月1日から31年3月31日までの該当事項を農家に記入して貰い、指導員はこれと、ききとりで得た材料とをもとにして、

岡山畜産便り1956.05

その農家の畜産経営のまずいと思われるところ即ち改善点を指摘して、これに基づいてその後毎月4回位農家に出向いて直接指導し、問題の解決に協力指導し、これを他の大部分の一般農家に普及するというやり方をとっている。1年たったならばまた次の別の対象農家を選んで同様のやり方を繰り返す。

以上直接指導の任に当るのは指導員であって、これは畜産会が関係団体の職員に委嘱するのであるが、この活動には常にその地区を担当する普及員や家畜保

健衛生所の職員の密接な協力援助を必要としている。

対象農家は10戸が1つのグループを形成して、1人の指導員の担当区域となるが、この場合2人の指導員が1組になって、指導班を編成し20戸の対象農家を受け持つ場合もある。昭和31年度の岡山県の経営診断の実施地区は和牛生産20, 同育成4, 同肥育6, 乳牛19, めん羊4, 鶏16の計69となっているが、その詳細は次のとおり。

昭和31年度畜産技術経営診断指導地区並指導員表

和牛の部

郡市別	対象区	指導員		普及員		家畜保健所		備考
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	
新見市	菅生市	山岡 毅 石垣 堅固	菅生農協 阿哲畜連	村下 都利	新見	黒田 照昌	草間	生産
阿哲郡	本郷才	松尾 昌泰 山本 章巳	阿哲畜連 万才農協	池田 朝則	哲佐	狩野 理美	刑部	〃
真庭郡	久世山	前田 敏夫 馬場 十郎	真庭畜連	片川 尚雄	勝山	竹内 秀雄	落合	〃
苫田郡	加茂新加茂	金谷 英一 松葉 重夫	苫田畜連	中川 孝	加茂	牧 富男	加茂	〃
勝田郡	北吉野戸	小坂 直 福島 節夫	勝田畜連 共済勝北診療所	影山 恒男 原村 正樹	勝北	花房 猛	日本原	〃
英田郡	江見原	松本 結 安東 昭雄	英田畜連 共済大原診療所	長家 博志 福田 孟	作東 英田北部	檜尾 卓彦 天野 毅	美作 大原	〃
久米郡	亀甲穴	谷本 嘉夫 本松 允之	久米畜連	渡辺 安恒	久米中部	瀬島 源喜	倭文	〃
川上郡	高山庄	田上 義郎 石原 吟一	共済診療所 川上畜連	川上 寿夫	川上南部	黒沢 義明	宇治	〃
高梁市	中井原	大枝 信義 仲田 卓彌	高梁畜連	浅田 保 藤沢 宜治	高梁	黒沢 義明	宇治	〃
上房郡	上水田	宮井 貞臣 大塚 久二夫	高梁畜連	塚崎 泰助	北房	題府 優	豊野	〃
総社市	総社	向原 英夫 和氣 弘	吉備畜連	渡辺 澄男	総社	有安 肇	総社	育成
小田郡	矢掛川	藤枝 普久 杉本 龜一	小田畜連 美川農協	村田 登男	矢掛	清須 秀徳	中川	〃
和気郡	和気代	橘 隆 山本 攻	和気畜連 共済和気診療所	近藤 寛一 和気 主計	和気中部 赤磐東部	阿部 富士郎	和気	肥育
倉敷市	三茶田	柏原 要 難波 賢志	都倉畜連	白神 寛 岡本 太郎	倉敷 倉敷南部	石井 正俊	児島	〃
赤磐郡	瀬戸坂	光畑 栄 橋本 卓郎	赤磐畜連	山口 正康 柏野 良蔵	瀬戸 赤磐中部	小坂 静男	吉井	〃

綿羊の部

郡市別	対象区	指導員		普及員		家畜保健所		備考
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	
邑久	邑久忍	佐藤 権也 光本 静馬	邑久綿羊農協 牛窓共済	大脇 千加男	邑久中部	三浦 友久	長浜	
苫田	小香田	下山 省吾 中尾 虎之	獣医師会 農協	田口 忠	鏡野	古家野 末光	奥津	

岡山畜産便り1956.05

乳牛の部

郡市別	対地区	指導員		普及員		家畜保健所		備考
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	
勝田	勝間田 植月	野上行男 上東秀郎	北酪農 勝田畜連	西本一三	勝央	花房孟	日本原	
久米山	三院保庄	渡辺一正 上田幸雄	北酪農 美作酪農	渡辺安恒 茅野美成	久米中部山 津	瀬島源喜	倭文	
井原笠岡	新山主 岡山	日高猛士 岡田甲子	山酪協 農協	高塚直次 仁城誠一	笠岡原	清須秀徳 大西務	中井川原	
真庭	落合東 川	工藤恒三 森山敏郎	北酪協 農協	池田州平	落合	竹内秀雄	落合	
御津	平津	三宅賢 綱島照夫	平津酪農 一宮農協	和田友三郎	御津南部	鶴見正明	御津	
邑久	裳掛窓 牛	尾郷幹夫 高租秀明	旭東酪農	田坂了	邑久東部	三浦友久	長浜	
玉野	中東田 兎	山桐久太 畑一志	児島酪農	近藤俊三郎	玉野	石井正俊	児島	
倉敷	倉敷	三輪繁 小野十民	都倉畜連 共済都窪支部	白神寛	倉敷	石井正俊	児島	
玉島	玉島	石井滝太郎 森分昌彦	共済浅口支部	三橋栄	玉島	難波文	鴨方	
川上	成羽	円橋正二	成羽酪農	信原皓一	川上	黒沢義明	宇治	

鶏の部

郡市別	対地区	指導員		普及員		家畜保健所		備考
		氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	
西大寺	古金都田	羽原照夫 藤原尚	西大寺養鶏連	松家慧毅	西大寺	三浦友久	長浜	
浅口	鴨方金光	田中英一 友田博志	鴨方農協 金光種鶏組合	藤原保正	浅口西部	難波文	鴨方	
久米	弓削生寺	清水三二 杉山和夫	弓削養鶏組合 農協	遠藤欽也	久米南部	檜崎順弘	弓削	
吉備	高生松石	渡辺晴生 大角恭二	高松養鶏組合 生石養鶏組合	石井清志	高松	有安肇	総社	
井原	県高主屋	妹尾和夫 鳥越久士	井原畜連 井原養鶏協会	仁城誠一	井原	大西務	井原	
笠岡	城金見浦	城戸昇 佐藤正司	笠岡市養鶏協会	高塚直次	笠岡	清須秀徳	中川	
勝田	勝北	影山太 土井義郎	勝北養鶏組合	原村玉樹 影山恒男	勝北	花房孟	日本原	
和気	備前	大崎綾太 馬場靖隆	備前町養鶏組合	田測真一	和気南	阿部富士郎	和気	